

第110回 未来医療セミナー

2020年12月23日(水)18:00-19:00

ILC2発見から10年、 疾患の理解はどこまで進んだのか

茂呂 和世

大阪大学大学院医学系研究科生体防御学教室 教授
RIKEN IMS自然免疫システム研究チーム チームリーダー



2010年に報告した寄生虫感染排除に働く細胞として報告した2型自然リンパ球(Group 2 innate lymphoid cells: ILC2)は、アレルギー性疾患、リウマチ、線維症、肥満など、多様な疾患で働くことが分かってきた。ILC2の発見は、これまでT細胞、B細胞、マクロファージなど、抗原によって動き出すと考えられてきた免疫システムに、抗原非依存的炎症という新しい概念をもたらした。ILC2は抗原認識能を持たないが、サイトカイン、脂質、神経ペプチド、ホルモンなど、内在性の液性因子によって制御される。多様な臓器でILC2の役割が明らかになることで、これまで理解できなかった抗原認識を介さない慢性疾患の発症機構が明らかになると期待されている。

オンライン開催(事前登録制・参加費無料)

参加申込：下記URLからお申込ください。2020年12月18日(金)締切
<https://bit.ly/3mYFNtj>



主催：未来医療交流会

共催：橋渡し研究戦略的推進プログラム
大阪大学「戦略的TR推進による自立循環型新規医療創出拠点の実現」

後援：大阪大学医学部附属病院未来医療センター

お問い合わせ

未来医療交流会(未来医療センター内)
office@ima-mirai.or.jp
<http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp>

障がいのある方など、特別な配慮が必要な場合は、事前にご連絡ください。